

リハビリテーション科 この一年

リハビリテーション科技師長 坂本 雅則

スタッフについて

今年4月にはリハビリテーション科の大きな構造改革がありました。リハビリ組織が拡充されてきたことに加え、業務の効率性から判断して精神科勤務の作業療法士2名は医療技術部から診療部精神科リハビリテーション室へ異動しました。21年間同一科だったこともあり、春の花見、観楓会の付き合いは今でも続いています。

また、リハビリテーション科では今年4月に新たに作業療法士1名、言語聴覚士1名の採用を決めました。現在は理学療法士5名、作業療法士1名、言語聴覚士1名、パート職員4名、計11名で診療しています。

業務について

- ・運動器疾患の運動療法
- ・脳血管疾患の運動療法
- ・小児疾患の運動療法
- ・運動器疾患の物理療法
- ・失語症のリハビリテーション
- ・高次脳機能障害のリハビリテーション
- ・摂食・嚥下訓練
- ・訪問リハビリテーション
- ・名寄地区機能訓練事業
- ・上川北部地域リハビリテーション推進会議事務局の担当

リハビリテーション科の診療方針としては、安全なリハビリ医療の提供、急性期リハビリの質向上であり、基本的に今後も変わらないものと考えています。具体的には、整形外科リハビリに関し

ては術後のリハビリと早期自宅退院を目指します。脳外科リハビリに関しては、現在近隣には回復期リハビリ施設が少ないことをふまえて急性期リハビリのほか、回復期リハビリ機能を併せ持って診療を行なっています。また、訪問リハビリテーションや介護予防など高齢化社会に対応できる機能も今後重要になってくると考えています。

実績について（下表）

過去3年間の主な実績を下表に示しました。平成21年度は作業療法士採用により、施設基準：脳疾患リハビリⅢ（100点）から脳疾患リハビリⅡ（190点）へ格上げとなり、年間職員1人当りの収入は約940万円（平成21年度職員1人当りの収入額×12/9ヶ月）が見込まれています。今後収益が期待されるどころです。なお収入金額については、医業収益のほか名寄地区機能訓練事業における各市町村負担金も加算しています。

今後について

今年度リハビリの質向上のため、新たなコメディカル・スタッフとして作業療法士、言語聴覚士を迎え入れました。しかし、コメディカル・スタッフを揃えたからといって目標が達成されるわけではなく、まずはセラピスト集団として個人個人の治療技術のスキルアップを目指すことが基本であると考えています。その上で、コメディカル・スタッフの連携がリハビリの質向上のためには有効になると考えています。

リハビリテーション科 主な実績（平成21年度は4～12月まで）

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
運動器リハビリⅠ(170)	11,162件	9,918件	7,241件
脳疾患リハビリⅢ(100)	7,885件	7,157件	
脳疾患リハビリⅡ(190)			8,042件
訪問リハビリ(300)	213件	205件	162件
名寄地区機能訓練事業	193回派遣	198回派遣	143回派遣
収入金額	39,104,000円	36,604,000円	42,256,000円
稼働職員数	5名	4.5名	6名
職員1人当りの収入	7,821,000円	8,134,000円	7,043,000円